

「Inter-university Seminar on Asian Megacities in Tianjin」

発行者：
中央大学理工学部人間総合理工学科
環境デザイン研究室
〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27
2号館 2811・2817号室

2017. 9. 22 発行

The 22nd Inter-university Seminar on Asian Megacities にて、 大学院生 5 名が国際学会デビューしました。

2017年9月16～18日に中国の天津にて行われた「The 22nd Inter-university Seminar on Asian Megacities」に石川研究室の大学院生5名全員が参加しました。この国際学会は、建築、都市計画、ランドスケープといった様々な分野の人々が自身の研究について発表を行い、国際的な視点を養うと共に交流を深めることを目的とした学会です。22回目となる今年の学会では、中国、韓国、フィリピン、ロシアなどアジア諸国の大学生や研究生、教授が参加し、「Green City and Beyond -Local, Regional & Global Perspectives-」のテーマのもと、発表を行いました。

鎌谷さんは、再開発によってつくられた広場に着目し、東京都心のオープンスペースの傾向を発表しました。テキさんは、出身地である天津の緑地の変遷についてまとめました。コウさんは、埋め立てによって姿を大きく変えてきた東京湾に着目し、その問題点とポテンシャルについて発表を行いました。森田さんは、東京のパークマネジメントをテーマとし、代表的な公園を取りあげて市民協働の仕組みについて調べました。正村さんは、生物多様性を重視した公園を対象とし、エコロジカルプランニングの効果とその方法論についてまとめました。

すべての発表が終了した後はパーティーが開催され、会話を楽しむと共に、様々な国の大学の学生がそれぞれ出し物を行い、国際交流を行いました。また、最終日の18日には、会場となった天津市のまち歩きを行い、天津の歴史的な建築物や公園について知見を深めました。

今回の国際学会を通じて、国際的な価値観や視点を養うことができました。この経験を活かし、幅広い視野を持って今後より各自の研究を深めていきたいと思っております。



会場となった天津大学



北京清華大学の学生と交流



参加メンバーでの集合写真



発表を行っている石川研究室の大学院生
(右から鎌谷さん、テキさん、コウさん、森田さん、正村さん)